

Ⅱ．調査結果の要約

調査結果のまとめ①

【市場環境および平均寿命について】

1. 現在飼育率、平均飼育頭数、飼育頭数

- ・犬は減少、猫は横ばいの傾向にある。

2. 平均寿命

- ・犬の平均寿命は14.19歳、猫の平均寿命は15.33歳。
- ・超小型犬の平均寿命は小型犬、中・大型犬に比べて長い。
- ・猫は、最近5年間の傾向では伸びている。

【種類および飼育場所、フードタイプについて】

- ・種類:犬は「純血」が15年以降85%前後で推移。猫は16年より微増。
- ・飼育場所:犬は「散歩・外出時以外は室内」が15年より増加傾向。猫は、「室内のみ」が最も多く13年以降最も高い。
- ・フード:犬猫共に市販のドライタイプが最も多い。

【今後ペットの飼育促進に向けて】

- ・阻害要因は前回同様、「十分に世話ができない」「集合住宅」「お金がかかる」「別れが辛い」「最後まで世話をする自信がない」「死ぬとかわいそう」が上位。
- ・あったらいいと思う飼育サービスは、「外出時の世話代行サービス」「高齢受入施設提供サービス」「保険料減額サービス」「引き取り斡旋サービス」。
- ・飼育のきっかけとしては、「生活に癒し・安らぎが欲しい」「以前飼っていたペットが亡くなった」「家族のコミュニケーションに役立つ」「ペットショップで見て欲しくなった」が上位。

現状は、飼育率は低下・横ばい傾向にあるほか、今後の飼育意向も減少傾向にあり、厳しい市場環境が続く。これらの状況の中でも、ペットの飼育に対し「生活に癒し・安らぎが欲しい」という期待があり、これを阻害するのは、住宅・お金・世話・死の問題である。これらの問題を、「世話代行サービス」や「保険料減額サービス」「引き取り斡旋サービス」といったサービス提供によって取り払うことが望まれる。そのため、ペットの飼育の効用だけでなく、様々なサービスの紹介などを協会HPやイベントを通じて行うことは、飼育促進増に向けた取り組みとして期待される。

調査結果のまとめ②

【高齢者の飼育促進について】

- ・70代の高齢者が、現在飼育している犬を飼い始めたきっかけは、他の年代と比べて「運動不足の解消」が高く、上位にあがる。
- ・一方で、70代で犬飼育意向はあるが飼えない人の主な理由は、「最後まで世話をする自信がない」「死ぬとかわいそう」「別れが辛い」「十分に世話ができない」である。
- ・あったらいいと思う飼育サービスでも、「高齢になり飼えなくなった場合の受入施設提供」「引き取り手斡旋サービス」「老化ペットの世話対応サービス」が多くあげられており、自身での世話が困難になった時のために、ペットの面倒を見てもらえるサービスの充実により、安心してペットを飼育できる環境が望まれている。